

学界消息

広島史学研究會、中国四國歴史学地理学協會
昭和四十三年度大会
十月二十六日・二十七日
於 広島大学

シンポジウム「近代における民衆運動とその思想」

(報告) 維新期の農民闘争とその思想

有元 正雄

イギリス革命における水平派運動とその思想
友田 卓爾

上海における五・四運動とその思想

鎌倉 弘行

〈公開講演〉

考古学上より見たる上代の文物

——とくに銅鐸について——

梅原 末治

〈日本史部会〉

魏志倭人伝を読解する新拠点の提案

水野 惟之

寛徳荘園整理令の歴史的意義

坂本 賞三

中世阿蘇社領の給主について

阿蘇品保夫

国人領主制の確立過程

——備中国新見荘を中心に——

新川 武紀

室町時代における將軍および上級武士の政治姿勢

「修身」を中心として——
板野 哲

江戸時代初期藩の知行制度
藩財政の構造

青野 春水

——信州松代藩の場合——

吉永 昭

春台から青陵への思想の変遷

相良 英輔

会田安明の書癖

末中 哲夫

長府藩製糖業の展開とその挫折

——萩藩宝曆改革との関連において——

小川 国治

水戸学の形成に関する二、三の問題

瀬谷 義彦

近世後期における水論について

——安芸国賀茂郡志和組・下西条組の場合——

豊田 寛三

地主制形成期の農民闘争

——福田新田における小作騒動の分析——

太田 健一

鳥取県における土族の復讐運動について

山中 寿夫

陶氏謀反における毛利氏の動向

笹岡 栄

〈東洋史部会〉

南朝における本籍地任用から見た地方支配

小尾 孟夫

第一次サチャグラハ運動におけるM・K・ガン

——ジ——
野田 朗

元明代におけるイスラム東漸に関する一考察

今永 清二

清代四川の用水管理について

森田 明

宋初における黄河堤防の管理

殷代王族論
吉岡 義信
大西 正男

ロドリゲスのアジア観
英国模礼菴著「古今万国綱鑑録」について

伊東 隆夫

王充の位置

満井 隆行

〈西洋史部会〉

ツキエディエースの研究

——アルキビアデスに関する叙述を中心として——

丹藤 浩二

初期中世におけるConsuetudoの意義について

——Historia Francorumを史料として——

橋本 竜幸

シュメール社会研究の潮流

フランス革命とブルジョワジー

ブロイセン農民保護政策の側面

R・H・トニーの教育制度改革

地主を中心として見た第一次選挙法改革の成果

大滝 正理

独立革命期におけるニューヨーク植民地の派閥

形成について

——一九一四年の七月危機末期における独逸関係

——
仲田 光

ナチス農業政策に関する若干の考察

——世襲農場法 Reichserbhofgesetzと国会

選挙との関連性について——

ランケ・ルネサンスについて

——その史学思想的背景——

吉武 夏男

〈地理部会〉

中国山地和牛放牧生産地域の変貌

中里 亜夫

いわゆる移民会社について

——明治・大正自由移民時代——

石川 友紀

甲立礫層についての疑問

武永健一郎

帝釈高原および帝釈峽の地形

武永健一郎

アタカマ砂漠の侵蝕形

赤木 祥彦

ガンジス流域の農村

村上 誠

——その経済的側面——

椎葉山村の最近の地域的変貌

牧野 洋一

台北盆地の農村集落

黄 仁 煌

——芦州郷正義村の場合——

都市の拡大と第一次産業

佐伯 岩男

——広島市の場合——

能登半島の地形について

網永 肇

昭和基地周辺の氷河地質学的観察

吉田 栄夫

〈考古・民俗部会〉

一九六八年度帝釈峽遺跡群の調査研究

神谷川遺跡の調査

松崎寿和・潮見 浩

〈社会科教育部会〉

アメリカにおける社会科教育研究に関する一考察

川越哲志・福井万千

ナチス時代と社会科教育

片上宗二・武元茂人

活動法を用いた地誌的学習の一展開

西谷 稔

歴史的思考力育成への一試案

高辻 尚文

——

——

——

——

——

——

西川 浩・石田德行・磯部修三

ヨーロッパの国家群の総合的思考による地理学

野本 晃史

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

ナチズムの諸問題

——ドイツ史における連続性——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

村瀬 興雄

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

九品の制について 矢野 主税
チョーラ朝期南インドの村落について

十九世紀におけるシャリーア体系解体のエジプトの形態 辛島 昇
板垣 雄三

タイ近代政治史の評価について 河部 利夫
小島 淑男

〈西洋史部会〉

I. G. II: 2776 の成立事情

岩田 拓郎

ヘラクレイオス王朝における宗教政策転換の政治的背景 杉村 貞臣
今野 国雄

中世宗教運動の諸形態 フランス絶対王制確立過程の民衆運動 千葉 治男

一八一八年の「関税法」をめぐるプロイセンの経済政策とその思想
——官僚自由主義研究のために——

千代田 寛

ポナローティと国際的秘密結社 北原 敦
ロシア革命とフィンランド

——フィンランドにおける現代史研究動向に寄せて—— 百瀬 宏

〈史料展覧〉

日本銀行標本貨幣室

立教大学史学会 一九六八年度大会

十一月十六日

於 立教大学

〈公開講演〉

文政年間における宿制改革

児玉 幸多

〈研究発表〉

蒙古造筆について

林 正子

エスピリット・サント号事件について

岸野 久

農奴主国家体制の危機段階におけるロシア財政

梶田 澄子

近代文書の扱いについて

佐々木 克

台湾における同化教育の歴史

野崎 正昭

原始集落および原始的土地所有に関する二、三の問題 石川 栄吉

日本史研究会 一九六八年度大会

十一月十六日・十七日

於 立命館大学

〈共同研究報告〉

〈古代〉 律令国家の成立と人民闘争 野田 嶺志

〈中世〉 王朝国家体制と人民闘争 坂本 賞三

〈中世〉 中世後期民衆の意識状況をめぐる

横井 清

二・三の問題

〈近世・近代〉 幕末維新の人民闘争——明治維新と農民革命—— 維新史研究グループ

〈近代〉 日本帝国主義確立期の階級闘争

国史学会 昭和四三年度大会

掛谷 宰平

十一月十六日、十七日

於 国学院大学

〈講演〉

近代官僚の成立

藤井 貞文

日本史上における古代と中世

竹内 理三

〈研究発表〉

甲府盆地における古代集落の立地 伊藤 勇人

奈良時代に於ける西海道諸国の等級について 古庄 宏規

いわゆる親族・家人・若党・中間

後藤 重己

——豊後志賀氏の家臣構造——

湯山 賢一

中世後期の村落について

山名 隆弘

豊臣秀吉の大鷹野

矢部誠一郎

石川丈山と煎茶道

岩根雄次郎

南部藩営木崎牧の性格

岩根雄次郎

三浦半島に関する三種の地誌について

菊地 武

幕末・維新期における民衆支配の変化

千葉 幸伸

戊辰戦争の側面

田中 正弘

尊攘運動の役割

野村乙二朗

〈展示会〉

梧陰文庫展示会 井上毅文書とくに憲法制定関係、条約改正関係、教育諸関係の重要文書四六

点を展示

日本思想史研究会 昭和四三年度大会

十一月十六日・十七日

於 東北大学文学部

〈講演〉

西洋人のえらんだ日本の代表的思想家

金倉 円照

〈研究発表〉

古代日本人の現実的性格

田中 元

古代祝詞における神話の機能について

渡部 正一

「作庭記」及び「山水並野形図」の造庭思想

佐々木利三

鎌倉武家学問の意識と限界

佐藤 和夫

興福寺奏状をめぐる

奈良 博順

親鸞の歴史思想

古田 武彦

道元における悟りと行動

春日 佑芳

「秘スル花」の理と禪的論理

広神 清

愚管抄の成立年代について

福井 康順

寺院社会における多数決制度

清田 義英

北条氏康と学僧

小笠原長和

桃山文化の特質

筈井 昌昭

新井白石の歴史思想

玉懸 博之

江戸時代中期の「天」の思想

石毛 忠

実学史上における「蘭学」

藤原 遼

本居宣長の「もののあはれ」について

相良 亨

梅辻規清の鳥伝神道について

平 重道

頼家のサロン

河野 秀男

幕末変革思想の血脈

今中 寛司

京都府史料をめぐる金本頭蔵禁烟事件について

上田 穰

民権思想の地域的特質について

橋本 正信

井上哲次郎における国家と宗教

洪川 久子

岡倉天心の思想について

小川 光暢

啄木と大逆事件

高阪 薫

高倉徳太郎における自我の問題とその克服

鶴沼 裕子

日本芸術思想の根本問題

下店 静市

和辻哲郎と法隆寺

荻野三七彦

〈展観〉

狩野文庫重要典籍展

明治維新百年記念 神道學術大会

昭和四十三年十一月十六日〜十八日

於 皇學館大学

(神道宗教学会・神道史学会・神道学会・社

会と伝承の会共催)

〈共同討議〉

神話教育をめぐる

安津素彦・田中 卓・戸田義男・

(発題者)

原田敏明 (司会) 田中初夫

〈公開講演〉

歴史における方向と均衡

——明治時代に関連して——

〈研究発表〉

——明治時代に関連して——

下村富士男

明浄正直勤務追進

鎌田 純一

天皇の人間宣言

宮地 治邦

神道と神道教化

平井 直房

神道と中世仏教

萩原 龍夫

平田篤胤の毎朝神拝詞記

渡辺 寛

神社と神道

西川 順士

重加靈社の根本義

谷 省吾

教育勅語と明治初年の神道思想

小野 祖教

文化史学会 一九六八年度大会

十一月二十三日

於 同志社大学

〈個別研究発表〉

十八氏の墓記

橋崎 干城

中世八条院町について

仲村 研

明治前期行政区画の変遷

守屋 敬彦

戦時下の自由主義者

宮沢 正典

南部におけるポピュリズム運動

長田 豊臣

〈大会テーマ〉「歴史における体制の思想」

古代 律令成立期における体制の思想

中世 中世成立期の支配的イデオロギ

近代 戦後のアメリカ史学思想をめぐる

河音 能平

「大会テーマ」に基づくシンポジウム」

大下 尚一

大谷大学仏敎史学会 大会

昭和四十三年十一月三十日

於 大谷大学

仏敎説話に現われた観音信仰
越前における東西分派と百ヶ寺争い
佐々木令信

天台宗と末寺別院の展開

「自然法爾」思想の系譜

〈特別講演〉

応燈閣について

龍谷大学史学会 大会

昭和四十三年十一月三十日

於 龍谷大学図書館

善隣国宝記の成立について

道慈の「愚志」に関する一考察

岐阜県各務原市炉辺遺跡の発掘調査報告

丹波地方における真宗教団の発生

〈學術講演〉

鉦山町と寺院

菅野 甫
朝枝 照
大江 傘
吉田 証
小葉田 淳

関西大学史学会 昭和四十三年度大会

十二月七日

於 関西大学

〈公開講演〉

古代末期の農民問題について

戸田 芳実

〈研究発表〉

古代輸送における綱丁の役割

内舎人と通事舎人の関係

「博多宗伝」について

「那智籠」の背景

大和における初期寺院跡の立地について

諸陵寮式の近隣近墓制について

陵墓祭祀の風習について

一八一五年より一八四八年までのドイツ連邦

高橋 隆博
松尾 大
泉 澄一
鶴崎 裕雄
菅谷 文則
北垣聰一郎
田中 久夫
秋山 博愛

駿台史学会 一九六八年度大会

十二月七日

於 明治大学

〈大会発表〉

弥生時代後期の集落

—— 神奈川県二ツ池遺跡について ——

太平天国の宗教思想

マキアヴェェのリヴィルトウについて

小牧市の工業化とそれに伴う農業の変化

明治前期における地方銀行の展開

—— 静岡県掛川銀行 ——

群馬県高崎市観音山古墳の調査

井上 裕弘
池田 清
松原 正道
吉田 銑司
宮川 康
梅沢 重昭

千謙と団管

comy についての一考察

戦後北海道における地域開発の事例的展開

四、五世紀の越前

〈特別講演〉

ヨーロッパ・中近東考古学の旅

—— スワラブレエよりモヘンジョダロへ ——

青山 治郎
奈良輪 京
榎井 正美
志田 諄一

三田史学会 大会

昭和四十三年十二月十四日

於 慶応義塾大学

〈學術講演〉

アンジのフランシスと宗教運動

奈良朝貴族の生活図

歴史における夢

〈学会報告・記録影写〉

古代遺跡を訪ねて

—— ウルからクノソスまで ——

坂口 昂吉
井口 悦男
前嶋 信次
清水 潤三

史元会（日本古代史研究会） 第四回大会

昭和四十三年十二月十四日

於 明治大学

五・六世紀の大和政権についての一考察

日本霊異記と小子部栖輕

牛山 武
井上 正一

常世神再論

下出 積与

奈良時代における優婆塞について

柴山 正顕

〈公開講演〉

わが国の郷里制

竹内 理三

岡山史学会 昭和四三年度大会

十二月十五日

於 岡山大学教養部

〈研究発表〉

備後工業特別地域の工業化の特色について

由比濱省吾

ロシアの農村共同体

——一九二二年の土地法典の成立をめぐって

保田 孝一

部落史の諸問題

柴田 一

不授不施派における禁欲主義

長光 徳和

中世備前焼古窯址の分布とその意味

間壁 寛子

吉備真備研究の問題点

中山 薫

中国古代の農民叛乱

好並 隆司

〈特別講演〉

敦煌文書にたずねて

大淵 忍爾

バックナンバー在庫のお知らせ

バックナンバーの在庫は次の通りです。
総目録(五〇巻六号付載)をご参照の上、
ご利用下さい。(一)内は頒価。送料は頒

価百円まで一〇円、他は二〇円。お申込は前金にてお願いいたします(但し会費を前納いただいている方に限り、わざわざ御送金願わなくとも前納会費より差引かせていただきます)

三三巻一・二号(各八〇)

三四巻一・二号(一四〇)・四号(八〇)

三八巻二・五号(各一〇〇)

三九巻二・五号(各一〇〇)・六号(二〇〇)

四〇巻六号(二〇〇)

四一卷三・四号(各一〇〇)

四二巻四・六号(各一八〇)

四三巻二・六号(各一八〇)

四四巻一・四号(各一八〇)・六号(二〇〇)

四五巻一・五号(各二〇〇)

四六巻一・三・六号(各二〇〇)

四七巻一・二号(各二〇〇)・三・六号(各二四〇)

四八巻一・二号(各二四〇)・三・六号(三三〇)

四九巻一・六号(各三〇〇)

五〇巻一・四号(各三〇〇)・六号(三〇〇)

委員会たより

◇ 五二巻二号をお届けいたします。いざ

さかもう旧聞に入ってしまうですが、昨秋の各種学協会での発表をかげました。従来とも、本会宛ご連絡をいただいた学協会を中心に学会消息欄を編集しておりますが、むろん十分とは申せません。会員各位の御参加になった学協会のニュースを、本誌編集部宛にお知らせ下さい。各位のご協力を賜りまして、より充実したものに、心懸けてゆきたいと存じます。◇ お盆を機会に、滞納の方は会費をお納め下さい。

訂正 前号表紙の書平楽寺書店の広告中「禪と日本化の諸問題」は「禪と日本文化の諸問題」です。謹んで訂正いたします。

一九六九年二月二五日印刷 定価三〇〇円
一九六九年三月一日発行

史 林 (第五二巻第二号)

発行人 京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内

史 学 研 究 会

理事長 井 上 智 勇

印刷所

京都市下京区西七条御所ノ内中町五〇
中村印刷株式会社